



カウンセリングだより

3学期の相談日は

1月20日(月)、2月3日(月)、3月9日(月)

の月一回月曜日です。どなたでも、お気軽にお越し下さい。

また、毎週火曜日には子育て支援室「ぶんかベビーカフェ」を開放しています。

乳児の子育て中のお母さん、お茶を飲みながら育児相談や情報交換をして、

ぜひ親子でリフレッシュしてください～(´▽`)!

保育観察エッセイ®

はったつがみえるよ!

～ぶんかのこどもたち～

キンダーカウンセラー
宮本 祐子

♪ 幸いにも、私はキンダーカウンセラーとして、子ども達の中に入って一緒に遊ぶことができます。

毎月1回の訪問で、触れ合う時間は限られていますが、頻度が少ない分、子ども達の成長を感じられることが多く、毎回生き生きとたくましく変わっていく姿がとっても楽しみです♪

令和になって初めてのお正月を迎え、新しい一年が始まりました。

「レジリエンス」ということばをお聞きになったことはあるでしょうか?立ち直る力など、さまざまのことばに翻訳されていますが、心の回復力のことです。同じような失敗体験をしても、ある子どもは素早く立ち直るのに、別の子どもはいつまでも心が折れたままののだろうか。立ち直りの早い子どもは心の回復力を持っていると考えられ、近年研究されています。

立ち直る力がうまく機能しなくなると、園などの集団に入れなくなったり、心がつまずいたり心の病へと進んでしまうこともあります。子どもが大人の庇護を離れて困難に出会った時にも自分の力で生きてゆけるよう、目の前で子どもが辛い出来事に直面している時にどのように支えたらよいでしょうか。

後藤⁽¹⁾は幼い子どもの心のつまずきと成長について描かれた『モチモチの木』斎藤隆介作・滝平二郎絵 岩崎書店を取り上げています。

弱虫で甘えん坊の寝小便の5歳の男の子、豆太と優しいおじいさんの話です。豆太は夜「モチモチの木」が髪の毛をバサバサふるって両手を挙げ「お化け～」と脅している気がして怖くておしっこを一人でできません。おじいさんがだっこしてゆっくりおしっこをさせてくれます。ある寒い霜の晩、おじいさんが腹痛で唸り始めます。おじいさんを救うために、豆太は泣きながら山のふもとのお医者さんと呼びに行き、おじいさんのもとへ戻る途中で、勇気のある子どもしか見ることのできないと言いつけられた「山の神様の祭り」を見ます。腹痛が治ったおじいさんは「おまえはひとりでよみちをいしゃさまよびにいけるほどゆうきのあるこどもだったんだからな。じぶんをよわむしだなんておもうな。にんげんやさしささえあればやらなきゃならねえことはきっとやるもんだ」といいます。元気になると豆太はまたその晩から「ジサマア」と、シヨンベンにじさまをおこしたとサ、で終わっています。

後藤⁽¹⁾はおじいさんのように「どうしてなのだろう」といふかりながら、子どもの不安な心に寄り添って、優しくあやしてやるような忍耐と愛情が大切で、子どもの窮地を察して、寄り添う言葉をかけ、助けの手を差し伸べてくれる大人の重要性を語っています。

よく「困ったら言いなさいね」と声かけることがあると思いますが、幼い子どもは直面している状況が困っているかどうか判断がつかないし、なかなかことばでうまく説明できません。心の中は深い不安や恐怖に満ちていて、無力で孤立感にとらわれる恐れがあります。家族や周りの大人が気持ちをわかってくれる、助けてくれる、大丈夫と励まし続けてくれることこそが「最大の立ち直るための心のエネルギー」になると思います。

参考文献⁽¹⁾ 後藤智子「『モチモチの木』に描かれる子どもの危機と自立—大人の関わりがつまずきを成長の糧にする」『児童心理』第70巻 2016

キンダーカウンセラーとして、園を訪問させていただいております臨床心理士の宮本祐子と申します。普段は大学の付属機関の心理・教育相談センターで、主に就学前～中学生のお子さんについて、保護者の方々に、発達及び諸々の相談をしております。毎月1回、蛭池文化幼稚園にて、保護者のみなさまがお子さんとうまく関わりたいのか～など子育ての心配や、ご自分について、またお子さんのお友だち同士の関わりや園での生活の心配などの相談にのらせていただいております。費用の方は幼稚園で負担しますので、保護者の方々の負担はありません。また、園児の保護者以外の方も参加可能です。おこしになるのが難しい方には、出向いて相談を受けることも可能です。どんな些細なことでも「ちょっと聞いてみたいな～」「こんなときどうしたらいいかしら」というときに、お気軽にお越しください。